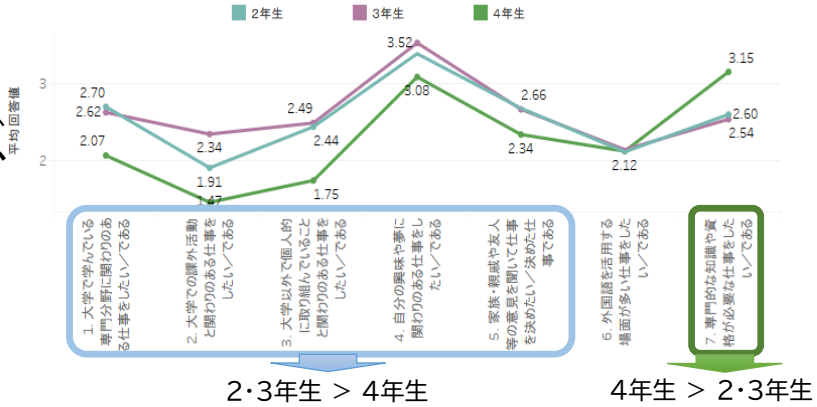
在学生調査 キャリア関連設問の分析【分析結果概要】

卒業後の進路をどのように捉えているか、2･3年生には現時点の希望について、4年生には決定した就職先の仕事について、共通する項目で訊ねている。第2章では、キャリア関連の設問項目を、**学年間と、学部間の回答傾向の違いについて分析し、実際の就職動向との関連を検討した。**

２・３年生の進路希望と４年生の実際の進路の違い（報告書 第２章 ２）

大学で学んでいる専門分野や大学内外での活動、自分の興味や夢、身近な存在の意見、といった個々人の活動や志向と、**４年生が感じる実際の進路との関わりは、２・３年生が現時点で希望するほど高くない。**

一方で、専門的な知識や資格の要求度合いは、**２・３年生が考えるよりも４年生では高く感じられている。**

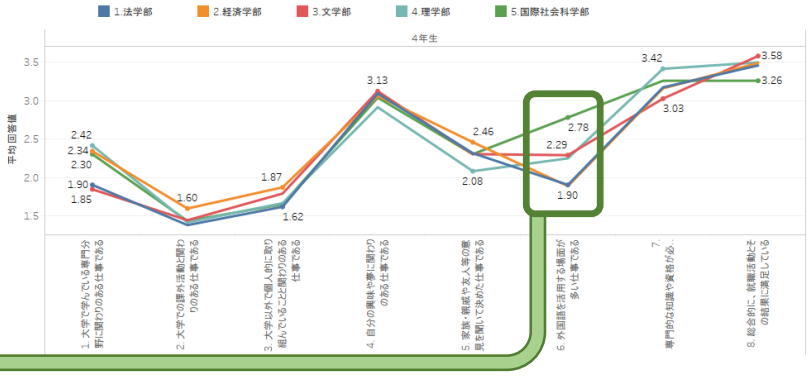


2･3年生 ＞ 4年生　　4年生 ＞ 2･3年生

４年生の進路に関する学部間の違い（報告書 第２章 ３）

国際社会科学部は、外国語を活用する場面の多い仕事に就いた学生が**比較的多かった。**

多くの項目で**学部による差はなく、全体的に就職活動とその結果に満足していた。**



国際社会科学部 ＞ 法学部･経済学部

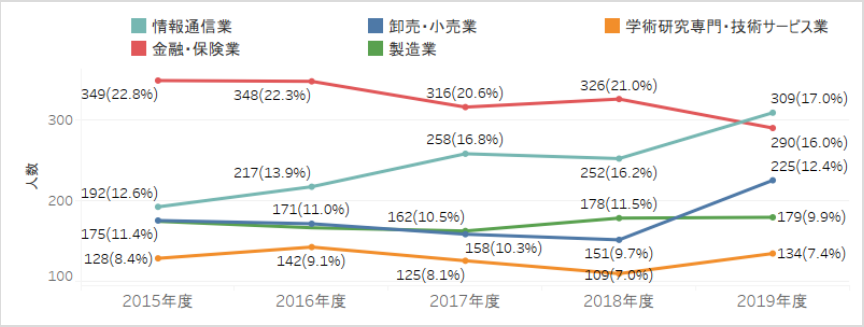
分析結果のまとめと就職動向との関連（報告書 第２章 ４）

・大学での学びと仕事の関わりは、２・３年生が希望する程度と比較すると、進路が決定した４年生にとってはより薄く認識されており、また別の仕事上の専門性が求められている。

就職動向

産業別（右グラフ）
- 「情報通信業」が増加傾向
- 「金融・保険業」が減少傾向

職業別（グラフは報告書参照）
- 「販売従事者」が減少傾向
- 「専門的・技術的職業従事者」が増加傾向で、その多くは「情報処理・通信技術者」



・産業別にみると「情報通信業」への、職種別にみると「専門的・技術的職業」への就職者数が伸びており、専門的・技術的職業といった場合、多くは「情報処理・通信技術者」であった。本学の学位プログラムは、必ずしもそれらの職種と直接の関連があるものではないため、大学で学んだ専門分野との関わりが薄くなるアンケート結果は頷ける。

・新卒採用においては、専門的に学んでいなくても、専門的・技術的職業従事者として採用されうる現状がうかがえる。ただし、今後これらの分野を学ぶことのできる大学や課程・プログラムが増えれば、将来的に本学の就職動向も影響を受けることが想定される。

在学生調査 回答傾向とGPA学科内順位との関連【分析結果概要】

1年生と4年生について、在学生調査の回答傾向とGPAとの関連性を検討した。**1年生・4年生の双方で、回答者のGPAが学科内の上位(25%)、下位(25%)、残りの中位のいずれに位置しているかによって3群に分け、各質問項目について、学年ごとに群による違いを検討した。**

大学での学び方 （報告書 第３章 3-1）

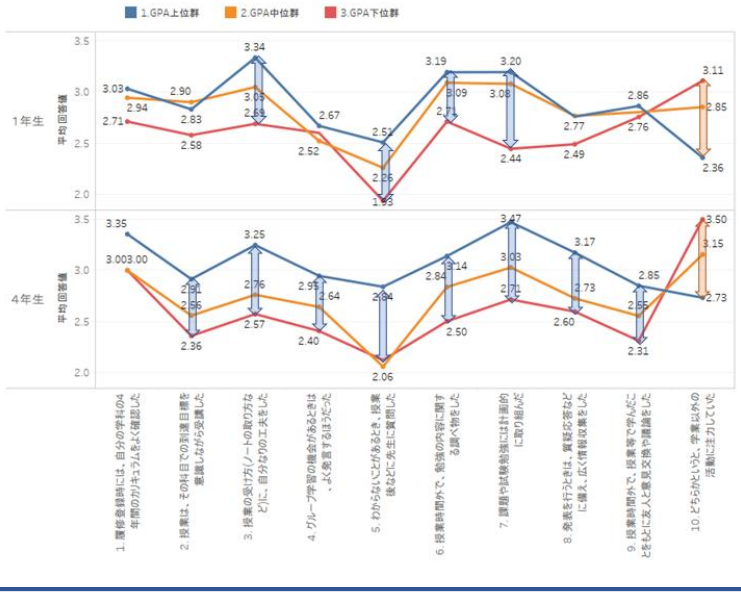
１年生

自分なりの受講の工夫、
教員への質問、授業外での調べ物、
計画的な課題や試験への取組を、
GPA上位群が下位群より意識的に行っていた。

一方で、
学業以外の活動に注力していた傾向は、
GPA下位群が上位群よりも強かった。

上の傾向に加えて、
到達目標の意識、グループ学習での発言、
発表前の準備、授業時間外での友人との
意見交換についても、**GPA上位群が下位群より意識的に行っていた。**

４年生



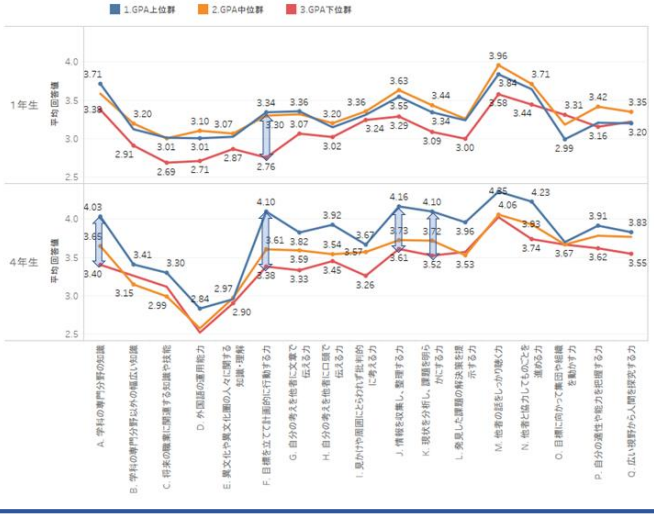
知識・能力の身についた実感 （報告書 第３章 3-2）

１年生

目標を立てて計画的に行動する力を、
GPA上位群が下位群より高く実感していた。

上の傾向に加えて、
学科の専門分野の知識、
情報収集と整理の力、
現状分析と課題を明らかにする力
についても、**GPA上位群が下位群より高く実感していた。**

４年生



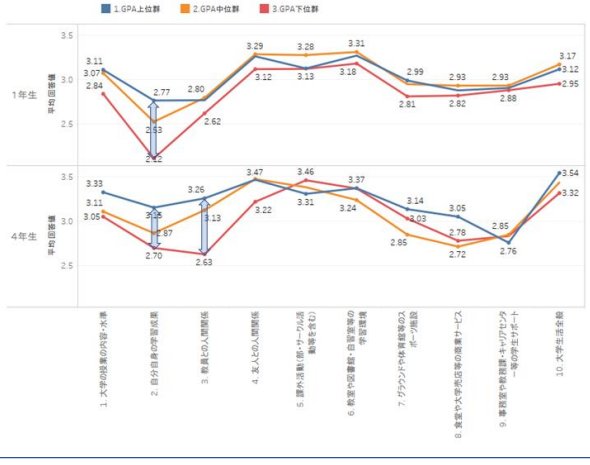
大学生活への満足度 （報告書 第３章 3-3）

１年生

自分自身の学習成果について、
GPA上位群が下位群より満足度が高かった。

上の傾向に加えて、
教員との人間関係についても、
GPA上位群が下位群より満足度が高かった。

４年生



（続き）在学生調査 回答傾向とGPA学科内順位との関連【分析結果概要】

授業科目・学習・課外活動等への意欲（報告書 第３章 3-4）

１年生

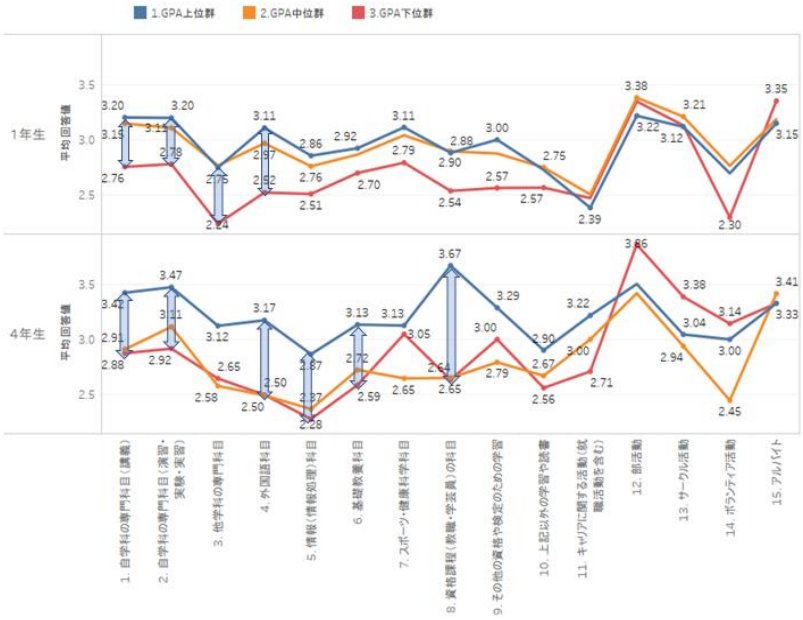
他学科の専門科目について、
GPA上位群が下位群より意欲的に取り組んでいた。

自学科の専門科目（講義、演習・実験・実習）、外国語科目について、
GPA上位群が下位群より意欲的に取り組んでいた。

部活動、サークル活動、アルバイトなどについての体験率や意欲の回答には、**GPAの群による違いが見られなかった。**

上の傾向に加えて、
情報科目、基礎教養科目、
資格課程の科目についても
GPA上位群が下位群より意欲的に取り組んでいた。

４年生



分析結果のまとめ（報告書 第３章 ４）

・GPA上位群と下位群の間の差に１年生と４年生で相通ずる点が見いだされ、学習への主体性・計画性や、目標を立てて計画的に行動する力の身についた実感での差の出方は、両学年に共通していた。

・４年生では、GPA上位群は外国語・情報・基礎教養や資格課程の科目にも下位群より高い意欲で取り組んでおり、卒業年次において幅広い分野へ意欲をもって学んでいる様子がうかがえた。

・１年生・４年生とも、学業以外の課外活動等への取り組み方について、GPA上位群では、課外活動への意欲が高くても、その活動に偏ることなく学業とのバランスが取れ、学習成果と課外活動の双方で満足を得られていることが確認できた。

・GPA上位群の下位群と異なる点は、ひとつは主体的な学習習慣が身についていること、もうひとつは自分なりの目標設定や到達イメージが持てており、自らそれに向けた学生生活のバランスの取り方、計画的な過ごし方を構築できていることであった。この両面から学生への支援ができれば、学業への取り組みや意欲の維持、その先のGPA向上や知識・能力への自信に資することができるかもしれない。